

## CRS埼玉 産総研に100万8千円寄付

### 台風水没車両解体の収益

【さいたま】CRS埼玉（加藤一臣社長）は、国立研究開発法人・産業技術総合研究所で温暖化対策の一つ「ブルーカーボン」の研究開発を手掛ける海洋環境動態評価グループ（鈴木昌弘研究グループ長）に100万8千円を寄付した。浄財は昨年の台風19

号で水没した車両1008台の解体で得た収益の一部を当てる。同社の加藤社長と若月直樹取締役らが、産総研を訪ね、鈴木グループ長と主任研究員の塚崎あゆみ氏にあいさつして、寄付の主旨と至った経緯



加藤社長（左）と  
塚崎主任研究員

について説明した。

寄付のきっかけは、若月取締役が民放ラジオの番組で耳にした「鉄のスラブ（製鋼の圧延工程の中間製品）でアマモを育てるブルーカーボン」だった。若月氏は「自動車の解体で発生した鉄クズはプレスされて、また新しい鉄製品に生まれ変わる。自分たちの仕事はブルーカーボンと無縁ではない。災害が自社にもたらした利益を社会貢献に生かしたい」と振り返る。続いて「自然環境保護の観点から考えれば、自動車の適切な処理とブルーカーボンへの支援はつながるのでは」ともいう。鈴木グループ長は今回の寄付に対して、「研究を進めていく中で、自由な発想のもとに使える資金として有効活用したい」と感謝を述べた。